

令和6年度霞ヶ浦学講座「霞ヶ浦のヒミツを探ろう 霞ヶ浦の石」実施結果

実施日時：令和7年3月8日（土）9:00－12:30

場所：つくばジオミュージアム

講師：小野哲矢氏（筑波山地域ジオパーク推進協議会 専門員）

参加者数：28名（子ども16名 大人12名）

概要

つくばジオミュージアムを見学し、ジオパークや様々な石について学習しました。

ワークショップでは、参加者の皆さんは、石探しゲームや石の種類あてなど、実際に石を触りながら、霞ヶ浦の底には5種類の石があることを学びました。また、自由時間には「ジオ探究ベース」で楽しく遊びながら、筑波山地域ジオパークの多様な自然の素晴らしさを体感することができました。

1) ジオパークについて

ジオパークについてクイズを通して学習しました。

ジオパークは、「大地の公園」ともよばれています。

ジオパークプログラムとは、素敵な自然を守る活動を行っている場所」をさします。地球の自然遺産や地質学的特徴を保護し、教育や観光を通じて地域の持続可能な発展を進めていく取組になります。

筑波山地域ジオパークは、3つのゾーンにわかれています。

- ・筑波山・鶏足山ゾーン
- ・霞ヶ浦ゾーン
- ・平野ゾーン



2) 霞ヶ浦の石について

- ・霞ヶ浦の底にある石を観察してみよう

霞ヶ浦で集めた石を、どんな石（形、色など）があるのか探して、ワークシートに記入していきました。



- ・石探しゲームをしてみよう（石の種類あてゲーム）

気になった石をいくつか選び、その石が、「砂」「レキ」、「泥」、「生き物」、「マグマ」のどれからできているか、見本の石と比べながら、あてっこをしました。



・それぞれの石はどこから来た？

クイズを通して石がどこから来たか考えました。

泥や砂やレキなどでできている石は川沿いにもあることから川から運ばれていることがわかります。

それでは、マグマからできた石は、どこから来たのでしょうか。実は霞ヶ浦にそそぐ川のまわりには火山はありません。実は、その石は日光から流れていた巨大な川によって運ばれてきたのです。

(今の鬼怒川は、大昔は、今の桜川あたりを流れるとても幅の広い川でした。)



3) ジオ探求ベース見学

小野さん案内のもと、ジオ探求ベースにある6つのコーナーの見学を行いました。

6つを遊びながら周ることによって、筑波山や関東平野がどのようにできてきたか、筑波山周辺の地形、火山のでき方、火山からできた石について、水の役割、霞ヶ浦のなりたちなどを楽しく学習することができました。

